



## 強固で豊かな絆を

鹿児島中央高等学校

学校長 獅子目 博文

入学式の式辞で、次のように述べました。「皆さんには、この鹿児島中央高校で強固で豊かな絆を縦に横に幾重にも結んでほしいと思います。そして、その絆を世界へ、さらに次の世代へと広げながら、それぞれの夢を紡いでほしいと思います」と。

また、始業式や全校朝礼等、機会あるごとに「個と集団が共鳴する学校」でありたいと話しています。鹿児島中央生として3年間を過ごすことが、それぞれの個性と能力を最大限に伸ばすことでなければならない。集団の力が個を成長させ、個の力が総体としての集団を成長させる。個と集団が相乗的に高まっていく、そのような鹿児島中央高校でありたいと話しています。

そして、今考えていることは、同窓会の方々と在校生の絆を、もっと強固で豊かなものにしていきたいということです。5月24日、私は東京の同窓会に招かれました。久松清一会長さんをはじめ、お一人お一人が、第一線で活躍していらっしゃる、期は違っても強い絆で結ばれていらっしゃる、飲むほどに酔うほどに母校に対する熱い思いが高まり、私の胸を打ちました。素晴らしい時間をともに過ごさせていただいたことを感謝しております。

また、先日のテレビでは、本校出身の獣医師の活躍が放映されました。エチオピアにわたり、貧困にあえぐ村々で牛の病気を治し、農業協同組合をつくり、帰国して隠岐の人々のために働いている姿。深い感銘を受けました。

そのほかにも、多くの方から、同窓会の皆様の様々な御活躍ぶりが、私の元に届けられます。「鹿児島中央高校がいかに豊かな人材を輩出してきたか」、それを在校生にしっかり伝えていきたい、そんな思いにとらわれています。

具体的には、同窓会の皆さんに母校の教壇に立っていただきたい。各界で活躍していらっしゃる先輩の考え方や生き方に触れることで、主体的に自分の人生を切り開く姿勢を培う、何よりも鹿児島中央高校に対する誇りと愛着心を育んでいきたい、そのように考えています。今後、係を通して作業を進めてまいります。御協力のほど、どうかよろしくお願い申し上げます。